

# 探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

## 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社教育ネット

【サービス名称】

らっこたんPlus おたすけ学校AI

【サービスの支援項目】

カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

2026年1月



校務支援のためのAIチャットボット

おたすけ学校AI

OTASUKE GAKKO-AI

情報活用能力をAIで個別最適に

らっこたんplus



# 【らっこたんplus】カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

## 1. サービス概要・特徴

らっこたんplusとは、タイピングを始めとした情報活用能力を  
『子どもは楽しく先生は楽に』『個別最適に』『短時間で』身につけられる  
Webアプリケーションです

### 【主な機能】

<p>タイピング練習 (技能の習得)</p> 	<p>クイズ (知識の習得)</p> 	<p>体験型教材 (知識の活用)</p> 
--	--	--

### 【他のサービスとの違い】

- ✓ 『課題の設定』『情報の収集』『整理分析』『まとめ表現』『振り返り改善』の探究のサイクルの基礎が学べる
- ✓ ホームポジションを意識した確実なタイピングスキルが身につく
- ✓ 全国130万人との比較が見られる
- ✓ 学習データを9年間引き継ぎ可能

### 子どもは楽しく先生は楽に効率的に活用

- 『タッチタイピングナビ』の冊子教材で初期指導負担ゼロ
- 自治体別タイピング大会の実施で、楽しみながら学習意欲を向上
- 手元を隠せる『うちかたくん』でタッチタイピングを確実に

### 活用場面

朝の10分や  
授業の隙間時間



うちかたくん

価格  
月額1000円(税抜)/1ライセンス  
※利用料にアカウント発行作業も含まれます。  
※利用料に通信費は含まれません。

## 2. サポート内容

『いつでも安心して使える』  
を支えるサポート支援



SSO対応  
年次更新もすべてお任せ



教員向け  
操作説明会の実施



電話・メール・チャットでの  
質問を常時受け付け

# 【おたすけ学校AI】カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

## 1. サービス概要・特徴

おたすけ学校AIとは、校務で生成AIを活用する際の『最初の一步』を支援する学校向けAIサービスです。

### 【サービスの特徴】

①ユーザーがボタンを押す



おたすけ学校AIコア



②要望にあわせたプロンプトが自動的に選択される

③目的に最適化されたAIが対応



### 【他のサービスとの違い】

- ✓ 先生の辛いところに手が届くボタンを、要望を伺いながら常時追加
- ✓ 学習指導要領等学校教育に必要なリソースを学習済み
- ✓ 分析レポートが見られる

利用回数(日付別,月別)



### 生成AIに抵抗がある先生におすすめ

- 手早く確認できるわかりやすい紙マニュアル配布
- 『生成AIってなに?』『子どもに使わせるときは?』などの疑問にも答えるツール導入研修
- Scratchのプログラムの組み方などすぐに対応したい内容も手広く支援

### 活用場面

放課後などの校務実施時間に

### 価格

月額 800円(税抜)/1ライセンス  
 ※利用料にアカウント発行作業も含まれます。  
 ※利用料に通信費は含まれません。

## 2. サポート内容

『いつでも安心して使える』を支えるサポート支援



SSO対応  
 年次更新もすべてお任せ



教員向け  
 操作説明会の実施



電話・メール・チャットでの質問を常時受け付け

『らっこたんplus』『おたすけ学校AI』はそれぞれ以下のような課題を解決する役割を持ちます。

### 児童生徒・教職員が抱える課題

端末の利活用が進み、探究的な学びの高度化が進む一方で、子どもたちのスキルに起因する課題も顕在化している。特にタイピングスキルに関しては、練習の機会を学校が確保できないことが大きな課題となっている。



### サービスが果たす役割

本サービスでは①タイピングスキル習得②探究的な学びのための知識習得③初期指導の軽減と個別指導の効率化が期待され、教職員の手間を最大限に削減しながら、タイピングスキルをはじめとする探究的な学びに必要な知識のインプットが可能である。また、リアルタイムで児童生徒の習熟度を把握できるため、個別最適な学びを担保できるものである。

一斉学習では、児童生徒一人ひとりの興味関心や理解度に応じた個別最適化された問題を作成することが難しく、探究課題の設定や探究方法のサポートといった個々の学習プロセスに合わせた支援も十分に行えない。その結果、児童生徒の学習深度や理解度に応じた指導が実現しにくく、学習意欲の向上や深い理解につながりにくい状況が生じている。また、個別対応には多くの時間と労力が必要となるため、教職員の負担が大きくなり、児童生徒との直接的な関わりに十分な時間を確保しづらいことも大きな課題となっている。



授業準備や教材作成を支援し、学習計画や目標設定をサポートします。例えば、学年に応じた授業案の作成や学年だよりの文章例を提供します。また、教育課程外においても学習者への個別支援や体験学習の計画策定を支援します。例えば、算数の問題に対するヒント提供や修学旅行の計画作成を行います。これにより、教職員の校務の負担を軽減することができます。

## ■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

## サービスの活用風景・授業の流れ

らっこたんplus

授業のスキマ時間や朝の時間に実施



### 課題

- ・子どもたちのタイピング練習の機会を学校が確保できないこと
- ・統一のタイピングサービスを利用していないので児童生徒の個人差が教職員の肌感覚

### 解決

- ・朝のモジュールの時間に先生は授業準備をしながら、子どもたちはタイピング練習を行う
- ・統一のツールを利用したことにより児童生徒のタイピングスキルが測れるようになった
- ・各児童に合わせた個別の指導ができるように
- ・全体のタイピングスキルが向上したことによって、授業内での端末活用の促進となった
- ・ICTを活用した授業において、今までより所要時間が短縮された

## サービスの活用風景・授業の流れ



### 課題

- ・生成AIの利用が児童生徒と比較して教職員の利用が促進されていない
- ・児童生徒の生成AIの利用の指導ができない
- ・保護者対応や事務作業に時間を要しており、授業準備や教材研究に時間を充てることができない

### 解決

- ・身近な業務であるおたよりの作成やメール文章の作成で生成AIの利用が促進された
- ・新任の教職員が保護者対応に当たる際に生成AIとシミュレーションを行うことで、心構えができた
- ・10分以上時間を要していた作業が、生成AIを活用することで時間の短縮になった
- ・生成AIの特徴を活用しながら知ることで、実践的な生成AIの指導を児童生徒にすることができるように

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	5	学校等教育機関数	67	校
--------	---	----------	----	---

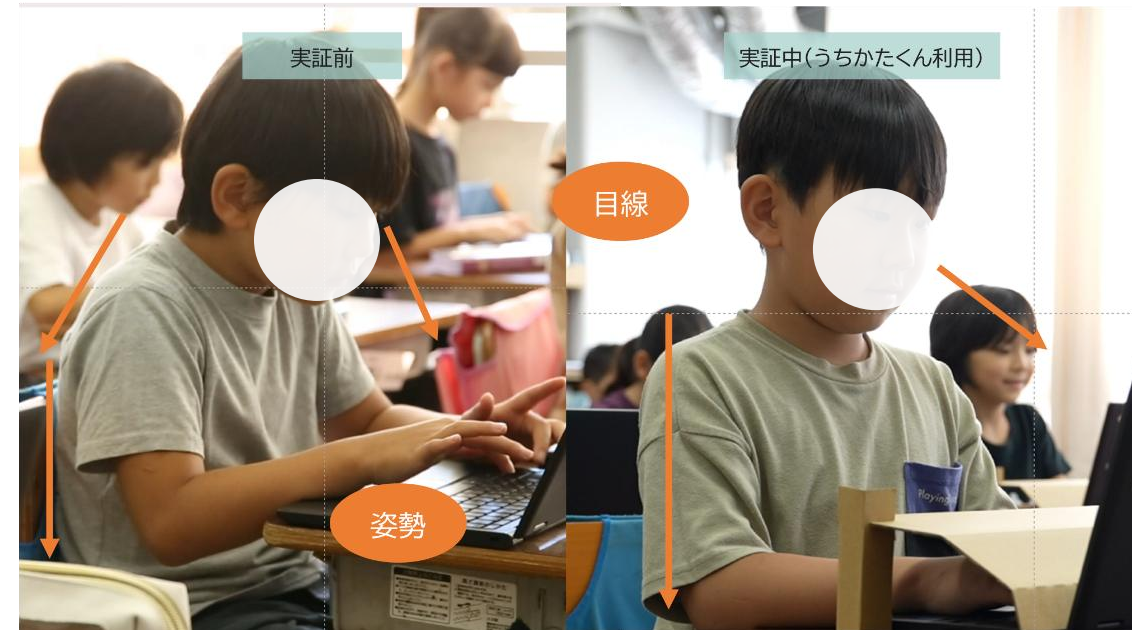
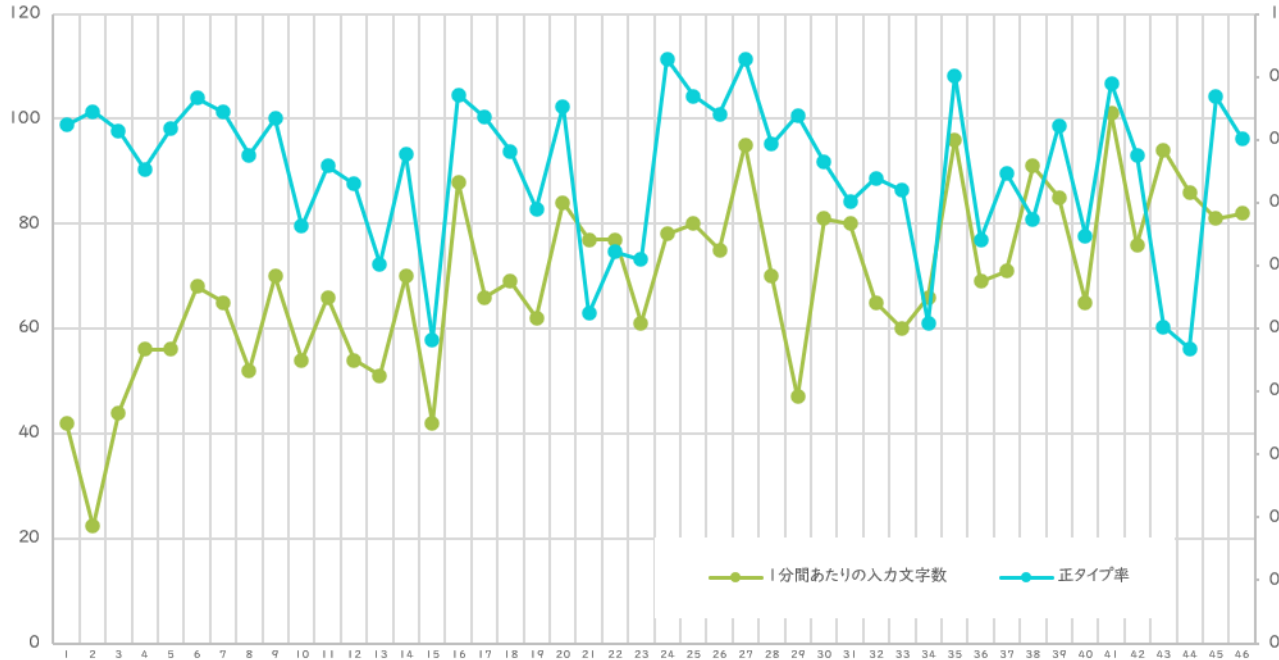
	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	富里市教育委員会	富里小学校 他9校	千葉県	小学校 中学校	全学年	【らっこたんplus】 1-1探究的な学びの高度化 国語算数／数学社会／地理歴史／公民理科総合的な学習（探究）の時間
2	笛吹市教育委員会	石和南小学校 他18校	山梨県	小学校 中学校	全学年	【らっこたんplus】 1-1探究的な学びの高度化 国語算数／数学社会／地理歴史／公民理科総合的な学習（探究）の時間
3	岩倉市教育委員会	岩倉北小学校 他4校	愛知県	小学校 中学校	全学年	【おたすけ学校AI】 2-1教職員の業務の効率化・省力化 国語社会／地理歴史／公民算数／数学理科英語総合的な学習（探究）の時間 授業準備生徒指導（個別）学校・学年・学級経営
4	菊川市教育委員会	小笠東小学校 他9校	静岡県	小学校 中学校	全学年	【らっこたんplus】 1-1探究的な学びの高度化 国語算数／数学社会／地理歴史／公民理科総合的な学習（探究）の時間
5	由利本荘市教育委員会	新山小学校 他22校	秋田県	小学校 中学校	全学年	【らっこたんplus】 1-1探究的な学びの高度化 国語算数／数学社会／地理歴史／公民理科総合的な学習（探究）の時間

定量的効果検証

らっこたんplus【タイピング】

らっこたんplusでは、タッチタイピングの確実な習得を目的として手元を隠す段ボール教具『うちかたくん』を活用した効果検証を行った

(入力文字数) 【うちかたくん利用に伴うスキルの向上推移】※抽出児童



実証者Aさんの練習記録は以下の通りである。実証前に1分間あたりの入力文字数が40文字程度であったところから、11月中旬時点には80文字を超えるところまで成長している。また、うちかたくんを使用することで姿勢の改善が見られた。姿勢の改善についてはAさん以外の実証者にも同じ様子が確認できている。

タイピング時の姿勢についても、顕著な改善が見られた。これは1児童にとどまらず、らっこたんplusを活用した8割以上の児童生徒にみられ、慣れてくると『手元を見ないほうがやりやすい』と言った声も聞かれた。

定量的効果検証

らっこたんplus 【情報活用能力】

情報活用能力の習得度合いを学年別に可視化できたことにより、学校での探究的な学びを行う際の声掛けや力を入れるべき活動が明確になった。校内で共有することによって、学校全体での情報活用能力育成計画の作成も可能になった。

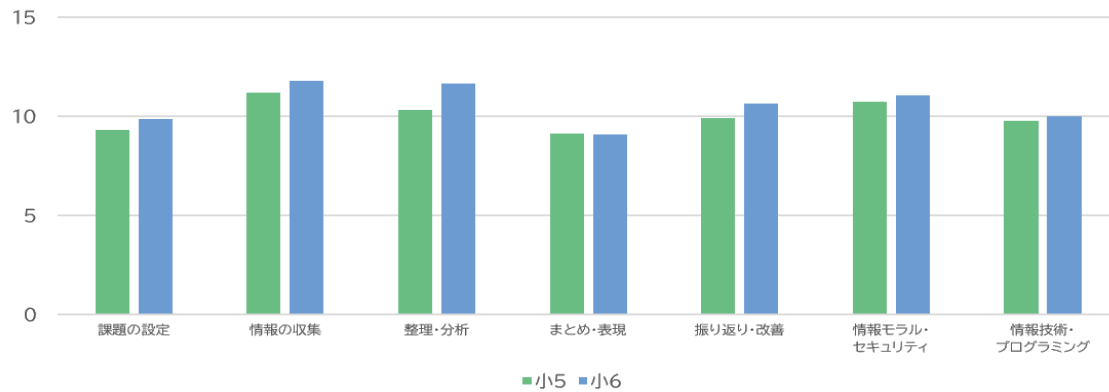
【調査概要】

方法:らっこたんplus内情報活用能力検定miniにて回答

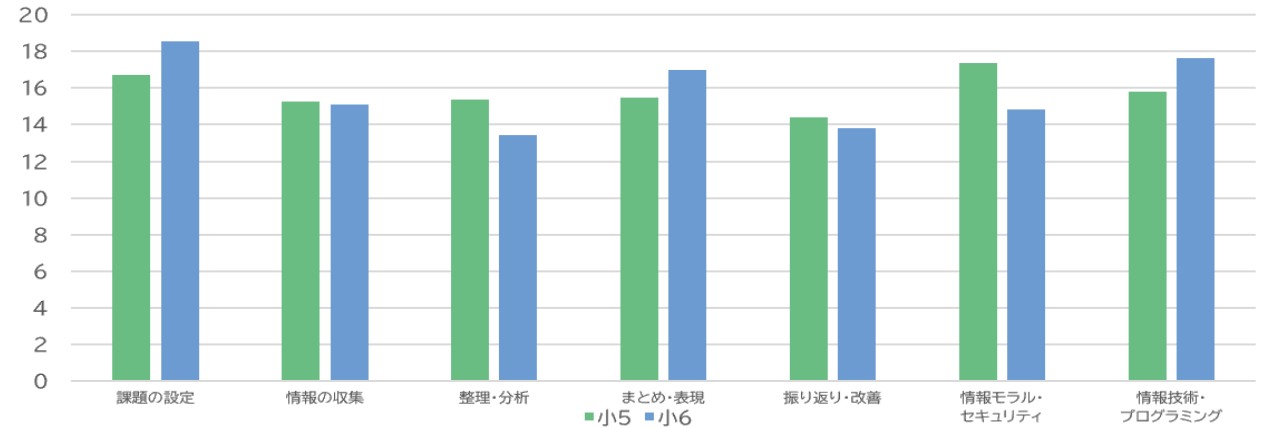
対象:らっこたんユーザーの5,6年生446人(公表データ分のみ抽出) 調査期間:R6.05~10

【平均値】

平均値(小5、小6)



【分散値】



【分析レポート】小学5・6年生では平均値が全体的に高く、特に「情報の収集」や「整理・分析」で6年生が優位に立っています。一方、「まとめ・表現」では両学年とも伸び悩みが見られ、改善の余地があります。分散値は全体的に大きく、特に「課題の設定」や「まとめ・表現」で差が顕著で、習熟度のばらつきが大きいことが分かります。高学年ではスキルの深化が進む一方で、個人差が広がっており、個別最適な支援がより重要となります。

## 定量的効果検証

# おたすけ学校AI

(N=2,979)

## データ収集および分析方法

### - 教員へのフォローアップ面談

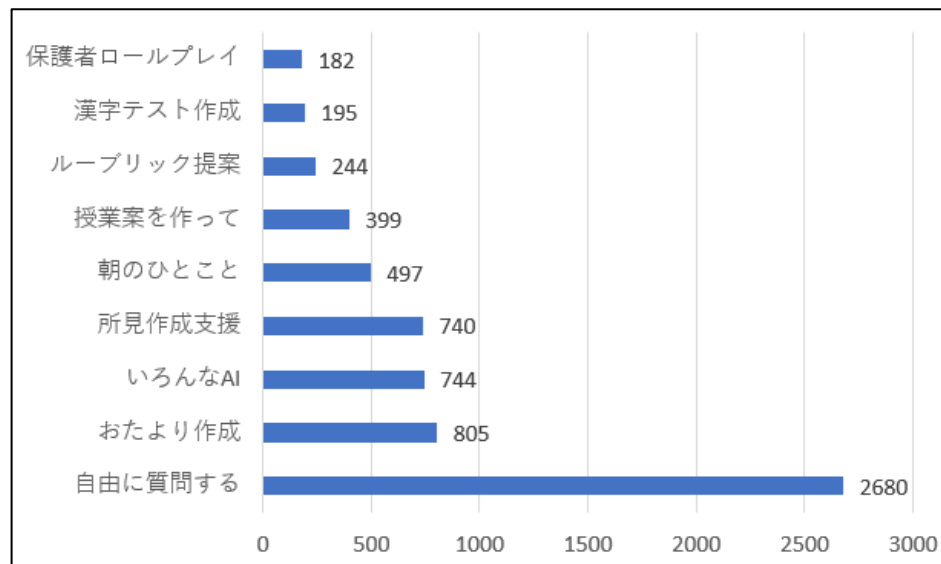
利用して感じたことや、AI応答の妥当性に関する評価、校務負担への影響についての意見をもらう。

### - AIとの対話ログの内容を分析

児童がAIに質問する内容の傾向や、会話の展開を調査し、どのような使われ方をしているかを調査、カテゴリ分けする。

### - 各コンテンツの利用回数の抽出 ※右記グラフにて提示

教職員が使ったコンテンツ(負担と感じている)とその会話の内容を調査し、カテゴリ分けする。



各コンテンツの利用回数(一部抜粋)

抽出期間:2025年5月1日-2025年12月31日

## 分析結果からの考察

AI活用がまず「自由に質問する」という自由度の高い使い方を中心に広がっていることが読み取れます。同時に、おたより作成や所見作成、授業案づくりといった日常業務の効率化にもAIが安定して使われており、現場の負担軽減に寄与している様子がうかがえます。一方で、専門性の高い領域はまだ利用が少なく、活用方法の理解や事例不足が影響している可能性があります。全体として、AI活用は「自由な対話」→「業務支援」→「専門領域」という段階的な浸透プロセスをたどっていると考察します。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

おたすけ学校AI

サービスの活用状況について

- 教職員がどのように活用しているかをログから抽出

サービスを活用した教職員の声(一部抜粋)

「思った以上に的確に回答してもらえた」  
 「課外学習の案内プリントを想定していた時間より短時間で作ることができた」  
 「それなりの文書ができるが、修正したい部分もあった。慣れてないこともあるが、場面によっては自分で手を動かした方が、臨機応変に作成ができるかも、と感じた」  
 「何度か使ったが、習慣化していないので、つい今まで通りのやり方で資料を作ることが多い。使いこなせるとよさそう」  
 「生成AIを使うことに対しての校内でのハードルがまだある」

考察

学校現場における生成AI活用は、一定の有用性が認識され始めている一方で、まだ個人レベルの試行段階にとどまっている。教職員からは「的確な回答が得られた」「短時間で文書が作成できた」といった肯定的な声がある一方、「修正が必要」「習慣化していない」「校内でのハードルがある」といった課題も挙がっている。これらは、AIの技術的限界というより、利用者のスキルや組織文化、業務フローとの整合性に起因するものが大きい。したがって、今後は個々の成功体験を組織的に共有し、AIを業務プロセスに組み込む仕組みづくりや、教職員が安心して活用できる文化醸成が求められる。

「ルーブリック提案」

「ルーブリック提案」を選択すると自動的に(プロンプトが)入力されます

AI: 対象にする教科もしくは、教科と単元を教えてください。

user: 国語 川をつなぐちえ。

AI: 国語の「川をつなぐちえ」に関するルーブリックを以下に示します。このルーブリックは、生徒の学習成果を評価するための基準を提案します。

評価基準	優 (4)	良 (3)	まあまあ (2)	あまり良くない (1)
内容の理解	テキストの内容を深く理解し、詳細に説明できる。	テキストの内容を理解し、要点を説明できる。	お話の内容をよく理解しているが、説明が足りない。	お話の内容がわからない。
表現力	自分の考えを明確かつ論理的に表現でき、豊かな表現を用いている。	自分の考えを論理的に表現できるが、表現がやや平凡。	自分の考えを伝えられるけど、ちょっと面白い言葉が多い。	自分の考えを伝えられない。
他者との関わり	他者の意見を尊重し、建設的な意見交換ができる。	他者の意見を聞き入れ、自分の意見を述べることができる。	友達の意見を聞いて、自分の意見も言える。	友達の意見を無視して、自分だけで考えている。
探究心	自発的に質問をし、さらに深い理解を追求する姿勢が見られる。	質問をするが、探究心がやや不足している。	質問をするけど、もう少し知りたい気持ちがある。	質問をしないで、ただ聞いているだけ。

このルーブリックを使用して、生徒の学習状況を評価し、具体的な評価を通じて、生徒の理解を深め、さらなる学びにつなげる。 ※表示がくずれて見える場合は、コピーしてメモ帳などに張り付けます。

user: もっと子供にわかりやすい言葉で

AI: もちろんです！子供にもわかりやすい言葉でルーブリックを作成しました。

評価基準	とても良い (4)	良い (3)	まあまあ (2)	あまり良くない (1)
内容の理解	お話の内容をよく理解しているが、説明が足りない。	お話の内容を理解しているが、説明が足りない。	お話の内容が少しわかるけど、説明が足りない。	お話の内容がわからない。
表現力	自分の考えを伝えられるけど、わかりにくいところがある。	自分の考えを伝えられるけど、わかりにくいところがある。	自分の考えを伝えられるけど、わかりにくいところがある。	自分の考えを伝えられない。
他者との関わり	友達の意見を聞いて、自分の意見も言える。	友達の意見を聞いて、自分の意見も言える。	友達の意見を聞いて、自分の意見も言える。	友達の意見を無視して、自分だけで考えている。
探究心	質問をするけど、もう少し知りたい気持ちがある。	質問をするけど、もう少し知りたい気持ちがある。	質問が少なく、自分から学ぼうとしない。	質問をしないで、ただ聞いているだけ。

このルーブリックを使って、自分の学びを振り返ったり、友達と一緒に考えたりすることができます。どの部分ができているか、どの部分をもっとがんばりたいかを考えてみましょう！

user: このルーブリックをどう使う？

AI: このルーブリックは、国語の「川をつなぐちえ」の学習を振り返るために使います。具体的には、以下のように入力して使えます。

自己評価: ルーブリックを見ながら、自分の学びを振り返ります。例えば、内容の理解や表現力について、自分がどのレベルに当てはまるかを考えます。

友達との話し合い: ルーブリックを使って、友達と自分の考えを話し合います。友達がどのように理解しているか、どんな表現を使っているかを確認し合い、意見を交換します。

先生からのフィードバック: ルーブリックを使って、先生が評価してくれます。どの部分ができているか、どの部分をもっとがんばるべきかを知ることができます。

目標設定: 自分の評価をもとに、次回の学びに向けて目標を立てます。例えば、「次は表現力をもっと良くするために、面白い言葉を使う練習をしよう」と考えることができます。

このように、ルーブリックを使うことで、自分の学びをより深めたり、友達や先生と一緒に成長したりすることができます。

教職員の活用ログを資料にまとめたもの(抜粋)



情報活用能力をAIで個別最適に

### 直面した課題

端末の利活用が進む中で、児童のタイピングスキル不足が大きな課題として浮かび上がった。多くの児童はローマ字入力や基本的なキー操作に十分慣れておらず、入力に時間がかかることで学習活動のテンポが落ちてしまう。また、学校としてタイピング練習の時間を体系的に確保することが難しく、継続的なスキル育成の「素地」が整っていない状況が見られた。

### 解決するための改善策

本サービスでは①タイピングスキル習得②探究的な学びのための知識習得③初期指導の軽減と個別指導の効率化が期待され、教職員の手間を最大限に削減しながら、タイピングスキルをはじめとする探究的な学びに必要な知識のインプットが可能である。また、リアルタイムで児童生徒の習熟度を把握できるため、個別最適な学びを担保できるものである。



校務支援のためのAIチャットボット

AIサービスの導入により、学習支援や校務改善の可能性が広がる一方で、教員による活用のばらつきが顕著に見られた。ICTやAIの活用に積極的な教員は授業に取り入れているが、慎重な教員は従来の方法を優先する傾向があり、学級ごとに活用度が大きく異なる。また、AIを授業に組み込む際の「活用の型」が校内で十分に共有されておらず、どの場面でどの程度AIを使うべきかの判断が教員個人に委ねられている状況である。その結果、児童の学習体験にも差が生じ、AI活用が学校全体として定着しにくいという課題があった。

授業準備や教材作成を支援し、学習計画や目標設定をサポートします。例えば、学年に応じた授業案の作成や学年だよりの文章例を提供します。また、教育課程外においても学習者への個別支援や体験学習の計画策定を支援します。例えば、算数の問題に対するヒント提供や修学旅行の計画作成を行います。これにより、教職員の校務の負担を軽減することができます。

## ■会社概要

社名	株式会社教育ネット
代表	大笹いづみ
設立年月	2014年6月6日
本社	〒224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24-4第6セキビル 502
資本金等	7,050,000円
売上高等	197,555,378円（前年度）
従業員数	25人
事業内容	学校教育や地域における情報モラルやプログラミング教育を中心としたICT・IoT関連サービス事業。教材提供から授業支援・実態調査・トラブル相談など各学校・自治体の要望に応じて幅広い支援を実施。 GIGAスクールサポーター事業も実施。現場のICT活用だけでなく、教育DXを念頭にし、子どもたちの情報活用能力育成（情報モラル・セキュリティ・授業提案等）を、それぞれの専門家がチーム体制で支援を行う形で、学校を支援。

## ■お問い合わせ窓口

担当：渡邊・古賀

電話：045-530-9401

Mail：info@edu-net.co.jp